

令和2年度第1回島田市認知症対策検討委員会

開催日時 令和2年7月30日(木) 19:00~20:00

開催場所 島田市保健福祉センター 研修室(3階)

出席者 【委員】

島田市医師会(サポート医)	小埜 聡司(会長)
島田市医師会(サポート医)	田口 博之(副会長)
榛原医師会(認知症かかりつけ医)	高木 勇人
地域包括支援センター(第一・北)	栗田 真理
地域包括支援センター(第二)	齋藤 富美恵
地域包括支援センター(六合)	鈴木 桂子
地域包括支援センター(初倉)	遠藤 久哉
地域包括支援センター(金谷)	塚本 里枝
地域包括支援センター(川根)	杉村 亜紀子
デイサービス(アポロン伊太)	永井 順子
ケアマネジャー(ケアマネットしまだ)	増田 朝美
認知症家族の集い(会員)	大石 豊子
認知症家族の集い(会員)	戸田 奈津子
民生委員	増田 隆男
島田薬剤師会	清水 雅之
榛原薬剤師会	進士 寿子

16人

【事務局】

包括ケア推進課長	酒井 敏弘
課長補佐	太田 佳宏
地域支援係長	畑中 陽子
連携推進係長	守谷 佳子
主任保健師	持塚 安代
書記	曾根 翼

欠席者 グループホーム(一期一会トータルケア) 大久保 武明

1 開会

2 会長あいさつ

コロナウイルスの感染拡大と今後の終息も先が見えない状況ですが、認知症対策も進めていかななくてはならない。影響を受けずに3密を回避する。今回は、オンラインの開催をチャレンジしていくことになりました。

3 報告・検討事項

- (1) 島田市の認知症施策について・・・・・・・・・・・・・・・・資料1
事務局説明

意見

委員) ケアマネジャーの視点からコロナ禍という事で、事業者、利用者へ影響があったことを伝えていきたい。市内の事業所でも面会禁止、事業所の併用利用の禁止、感染拡大地域へ行き来があった方について接触を禁止する対策を講じている。その結果、施設入所をすることになったケース、2週間事業所の利用を控えてもらうケースがありました。自粛期間に認知症が悪化した方、日課ができずに理解力が悪化した方もいました。この方の場合、主介護者が東京にいたので、家族と会えず通所の継続ができないため、影響があったようです。自粛を要さないデイサービスへ変更することで、多少の改善はありました。家族との面会を遮断されることは、やはり認知症の方へ与える影響もあるのではないかと思います。

会長) コロナ対策で認知症患者に与える影響について、ゴーグルマスクをつけたり口元が見えなかったり、表情がわからないことから声が聞こえにくい。患者さんの情報量、社会性が低下することによって、認知機能の低下、食欲の低下、BPSDの悪化が考えられます。入所施設で認知症患者の気持ちとして、面会制限を行うことによって、不安症状の悪化、認知機能の低下、見捨てられる感がでてきます。よく会いに来てくれる家族が会いに来てくれないことによる、うつ症状の出現があることが、外来診療で思っていることとなります。

委員) 毎日、認知症の方と関わっています。手指消毒の徹底、マスクの装着、定期的換気、部屋の消毒に努めています。利用者にアンケート調査を行い、サービス利用の状況につきまして、他の施設との併用利用について聞きました。介護負担の軽減のために、デイサービスを利用しているため、閉鎖されたら困るという意見がほとんどでした。毎日、認知症の方と関わっていて、色々なタイプの認知症の方がいます。送迎時に家族の方から日常生活について話を聞いています。島田市の取り組みを職員が理解をして、家族へ伝えていければいいと思います。

委員) 在宅で過ごしている方で、外出ができないことで、家の中で閉じこもり、家の人とのみ接する機会がないので、家の人ストレスが多い感じがします。施設で過ごしている人も寂しいという思いがあると思う。家族の人の負担が大きくなっている。

会長) コロナの拡大があり、今年は島田市の施策にも影響がある。

委員) コロナの流行があつてから、認知症初期集中支援チーム員会議をオンラインで行いました。短い時間でも効率良く実施ができたので、感染を気にせずに行えました。利用者は、コロナの流行で感染が怖いので訪問をしてもらいたくないと言われる方がいました。

会長) 認知症初期集中支援チーム員会議ですが、対面でなくても問題なく行えることができました。いい試みでありました。

委員) 家族が訪問を先延ばしにしてほしい、中止してほしいと言われることが何件かありました。通いの場が休止になってどこか、行く場所がないのかと相談を受けることが増えました。会議につきましては、圏域内の薬剤師にお願いをしてケアカフェを6月に始めてオンラインで行いました。グループワークを行うこともできました。会議の開催方法として、オンライン

を積極的に活用していきたいと思います。

委員) ケアカフェについて、定期的に医療介護連携の顔の見える関係づくりということで継続的に行っていました。6月にコロナ禍であってもつながりがもてるように、調剤薬局、介護事業所、包括支援センター、包括ケア推進課に集ってもらい行いました。Zoomの機能でグループ分けもできるので、その機能を活用しました。今後の認知症カフェもオンラインで実施することも、探っていきたい。

認知症カフェについて3月から休止していましたが、7月から再開をしています。

ウイズコロナでコロナ対策を知ってもらう、うがいの仕方、手洗いの仕方を認知症カフェで行いました。密にならないように、認知症で心配になる方に特別に声をかけて10名以下の人数で行いました。

薬剤師としまして、コロナ以降0410対応という処方箋のやり方ができました。

市民病院を電話受診した後、病院からFAXで薬局へ連絡が入り、薬局のほうから自宅へ薬を届ける方法を厚生労働省が提示してきました。

コロナによる受診の控えを防ぐ手段として、このような方式があります。コロナで受診控えがあるようでしたら、調剤薬局でもいいですし、かかりつけの病院へ相談してもらえれば、コロナ対応の薬の受け取り方があります。

認知症関連ですが、静岡県薬剤師会では薬剤師の在宅訪問を推進しています。コロナにおいて、受診控えがあるなか認知症の患者さんに向けて島田薬剤師会、及び榛原薬剤師会では在宅訪問を行うこともできるので、連絡をいただきたい。

会長) カフェについては、ウイズコロナに対する知識を家族へ伝えていくこと、これからのキーワードは在宅訪問とオンラインになっていくのではないかと思います。

委員) 金谷地区社協のスタッフが、介護者の集いを開催しています。コロナ前は5人くらいの介護者さんと、同じくらいの人数のスタッフの参加がありました。コロナの感染拡大があり、2月3月は中止していましたが、介護者から集まりたいと希望があり、4月から集まっています。スタッフは少人数になっていたようです。以前から来ていた介護者は、続けて参加してくれています。

金谷では、コロナに感染する危機感が予防はしていますが薄い印象を受けます。6月以降、サロン、居場所、しまトレの再開が早いように思います。家族からデイサービスの利用を止められている、利用者もいます。地域によっては、しまトレを再開しないところもあります。

オンラインで会議に参加をすることもあるのですが、今日のように夜間帯は、職員も少なくて静かな環境です。日中にケアカフェに参加した場合に、事務所に他の職員もいるし、電話は鳴るし来客もあります。自分の後ろを他の職員が通ります。部屋を移動するとWiFiがとばないので、部屋を変えることができない現状があります。

会長) オンラインの実施について市が考えていくことでもあります。今回のZOOMもチャレンジの部分でもあります。環境に慣れていく必要があります。

委員) ケアカフェを行った時、参加者の方の電話が鳴ったり、お客さんが来ている方がいました。オンラインの活用が主流になっていくので、環境を整えていく必要はあります。

静岡県のほうから体制を整えていくための補助金の情報もあります。包括ケア推進課を中心に整えていってほしいと思います。

会 長) 資料2について説明はないのですが、ご質問、ご意見、ご感想があればお願いします。

委 員) できるだけ高齢者の方は外出を控えているように感じます。通院している患者さんは、80代90代と高齢の方も多いため、認知症の進行が心配ですが、運動をしなくなって足腰が弱ってきたことも心配です。オンラインはコロナの対策には良いと思います。川根地区は通信環境がないことと、高齢者が多いのでオンラインの普及が難しいです。通信環境を整えないと難しいなと思います。

会 長) 市内でも駅の近くと川根本町近くの川根では、状況や意識が違っていると感じています。

委 員) 明日、キャラバンメイト連絡会を行います。サポーターさんが活動してくれるので、すでにチームオレンジが結成されています。認知症サポーター養成講座の開催について小学校中学校に連絡をしても、開催は難しいと言われます。時間も60分のところを、30分ずつ2講演人数を制限しながら、工夫をしながら行うように計画をしています。

委 員) コロナの感染防止で、普段留守にしている家族が家にいる時間が長くなった方もいます。自分の両親と過ごすようになって、予想以上に認知症が進行していることがわかり、サービスを利用したいと希望されてくる方もいました。

キャラバンメイトを中心にチームオレンジの活動と思っていますが、キャラバンメイトの年齢が高く、事業所の職員であると新しい活動への取組の負担が大きく、継続が難しい課題があります。地域ごとの活動もあるかと思いますが、横のつながりで他の地区の取組へ参加していきたいと考えています。

会 長) 家族会としてコロナとどのように付き合っていくのか、ご意見をいただきたい。

委 員) 家族会ですが、私の母親が認知症で介護度4でデイサービスを利用しています。父親も88歳になります。今まで、父親と家族会に参加していましたが父親が外出しなくなり、家族会をお休みしています。来月から、一人で参加も考えています。家に90過ぎの母親と88歳の父親がいるので、外出をして自分が万が一、感染したら家の中が大変なことになる不安があります。人の集まる場所への参加は、控えています。

委 員) 静岡新聞の投稿で制限する中で認知症や高齢者の方、家族の人が苦勞している視点も大切にしてもらいたいという投稿がありました。職員のご苦勞とか、精神的負担も感じていて、そこも大事にしないといけないなと感じています。

委 員) 民生委員の代表として、初めて参加しています。後期高齢者なので夜は辛いなと思っていましたが、オンラインで参加することができてよかったです。

昨年、民生委員の改選がありました。3分の2は委員が変わりました。新任の委員がほとんど研修も受けないまま、今まで来ています。新任の方の顔も名前も覚えられないまま、7月からやっと定例会を開催することができました。会場の設定にも苦慮しています。

新任の民生委員に覚えてもらうためにも、認知症サポーター養成講座を金谷包括に開催してもらえるように計画をしています。他の地区の新任の委員にも養成講座を受講してもらえるように伝えていきます。

今日の会議は進行もスムーズでこれから、いろんなところで使っていきたい。

会 長) 貴重な意見ありがとうございました。オンラインが無事に終わって、安堵しています。

4 閉会

事務局) 会長、委員の皆様ありがとうございました。オンライン会議を今後もできる範囲で活用をしていきたいと考えています。次回は1月頃を予定しています。詳細は後日連絡します。以上で第1回認知症対策検討委員会を終了します。長時間にわたりありがとうございました。